



株式会社中電シーティーアイ

1. 活用推進者

リソースディビジョン 人財開発室

室長代理兼企画グループリーダー 井上 恒雄

専門課長 荒谷 直久

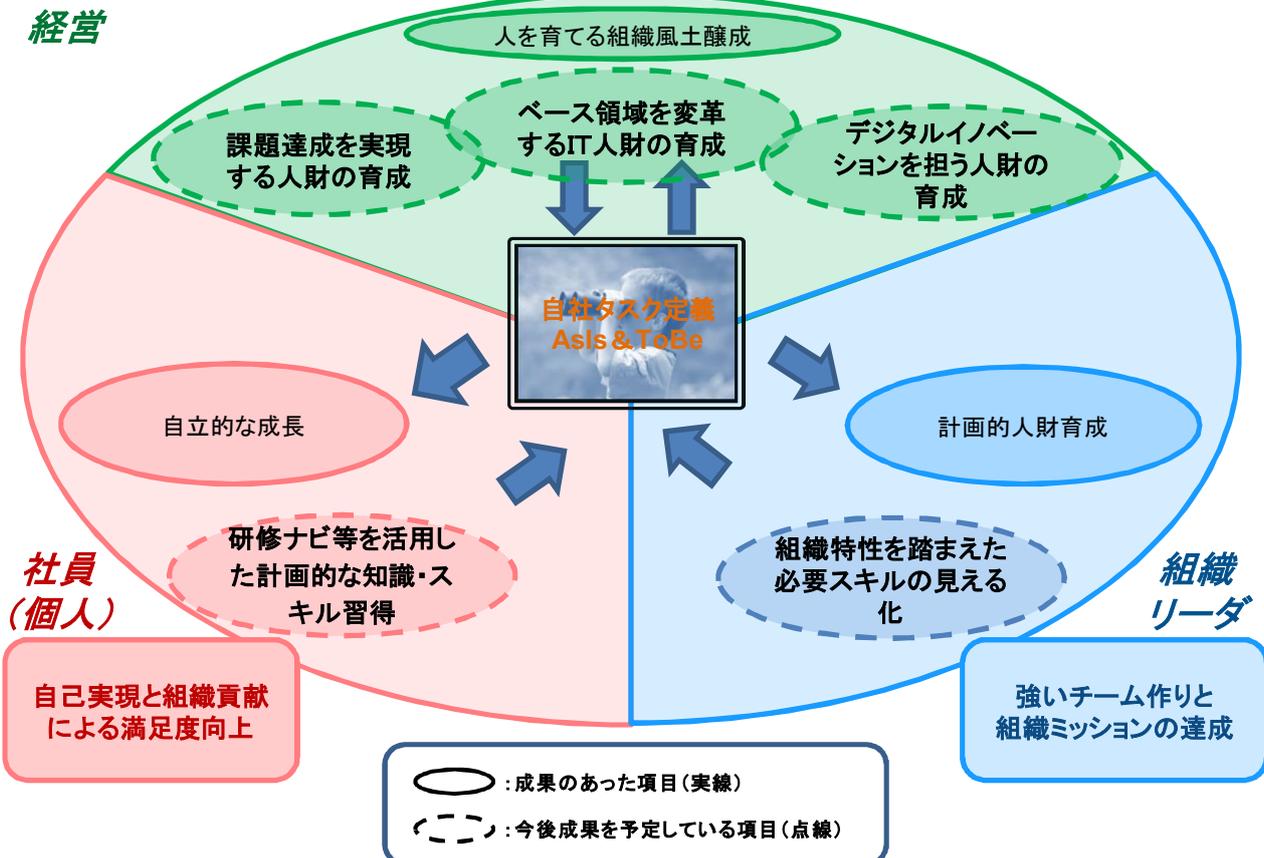
主査 高綱 理恵

2. 会社概要

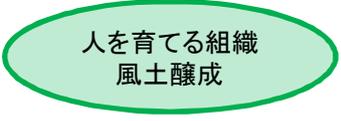
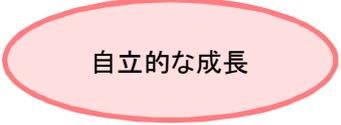
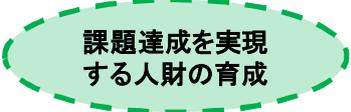
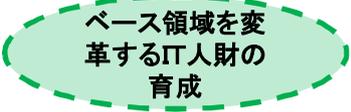
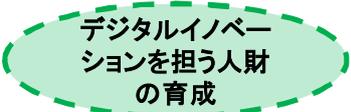
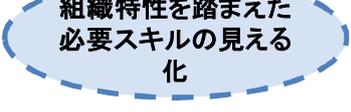
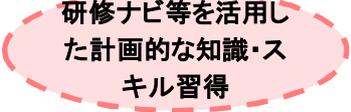
- 社 名 : 株式会社中電シーティーアイ
- 所 在 地 : 愛知県名古屋市中区正木1-4-6 正木ビル
- 設 立 : 2003年10月1日
- 代 表 者 : 内藤 雄順
- 資 本 金 : 1億円
- 社 員 数 : 1,110名

3. iCD取組み効果

経営戦略の達成とイノベーションを呼ぶ会社組織の構築



4. iCD取組みの効果及び今後予定する効果内容

4.1. 効果のあった項目	効果内容
 <p>人を育てる組織風土醸成</p>	<p>CPSS* 診断を起点とした「人財育成のPDCAサイクル」を構築したことで、組織一丸となった人財育成風土の醸成ができた。 *:Chuden CTI Professional Skill Standard(中電シーティーアイプロフェッショナル標準)</p>
 <p>計画的な人財育成</p>	<p>CPSSを活用して、部下の現状技術レベルを診断。それを踏まえ、将来を見据えて補強すべき業務知識・スキルを把握し、本人とともに習得・向上方法を協議した上で技術者の計画的な育成ができた。</p>
 <p>自立的な成長</p>	<p>自身のキャリアやスキルを振り返り、今後の課題・目標を明らかにすることで、「自ら学び自ら行動する意欲」が高まり、「知識・スキル」の向上を促進した。</p>
4.2. 効果を予定している項目	予定している効果内容
 <p>課題達成を実現する人財の育成</p>	<p>経営・事業戦略上の目標達成につながるような、あらゆる活動を進める上での基本となるビジネススキルの早期定着を図る。</p>
 <p>ベース領域を革新するIT人財の育成</p>	<p>超上流への拡大に向けて、高度で幅広い知識とコンサルティング力を持つ人財を育成する。 システム開発・保守・運用の分野では、高度専門技術者に加え、プロジェクトマネジメントやプログラムマネジメントを担える人財育成を重視。IT利用形態の変化に対応するため、パッケージ技術やDevOps等の新たな領域での技術者育成も推進する。</p>
 <p>デジタルイノベーションを担う人財の育成</p>	<p>先端技術のスペシャリストを育成する。 外部の団体や企業との交流を推進するとともに、最新技術動向等の情報を収集・活用する。</p>
 <p>組織特性を踏まえた必要スキルの見える化</p>	<p>CPSSタスク診断項目を組織ごとに定義することで、組織の業務特性を踏まえた経験診断を可能とする。</p>
 <p>研修ナビ等を活用した計画的な知識・スキル習得</p>	<p>CPSSタスク診断項目と研修コースを紐づけした研修ナビゲーション機能を新設する。これにより、本人が次に学ぶべき知識を容易に把握できるようになり、主体的な学習行動を促すことができる。</p>

5. iCD活用に対する現場からの評価の声



経営者

- ・当社の実業務にマッチした人材育成の仕組みを構築できた。
- ・技術者のITスキル向上に寄与している。



現場リーダー

- ・メインフレームから分散系への再構築の際、必要スキルを付与すべき対象者の絞り込みにCPSS診断結果を活用できるようになった。
- ・CPSS診断結果をもとに、必要な経験をさせている。

- ・自身の経験・スキルの棚卸しができた。
- ・次の目標が明らかになった。



社員

6. iCD取組みの効果

■効果項目：人を育てる組織風土醸成

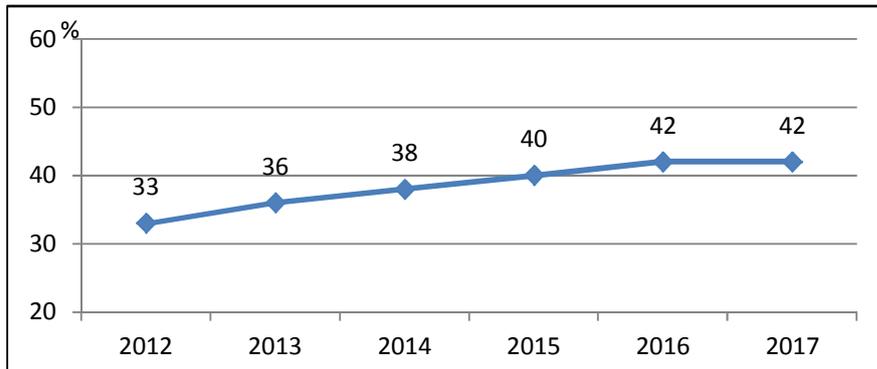
CPSS* 診断を起点とした「人財育成のPDCAサイクル」を構築したことで、組織一丸となった人財育成風土の醸成ができた。

*:Chuden CTI Professional Skill Standard(中電シーティーアイプロフェッショナル標準)

●事業拡大に不可欠な「中核的人財」比率の向上

メンバー指導できる力量を有する「中核的人財」(CPSSでは「アソシエイト」と呼称)の比率が向上しつつある(2017年度は微増)。

【「中核的人財」比率の推移】



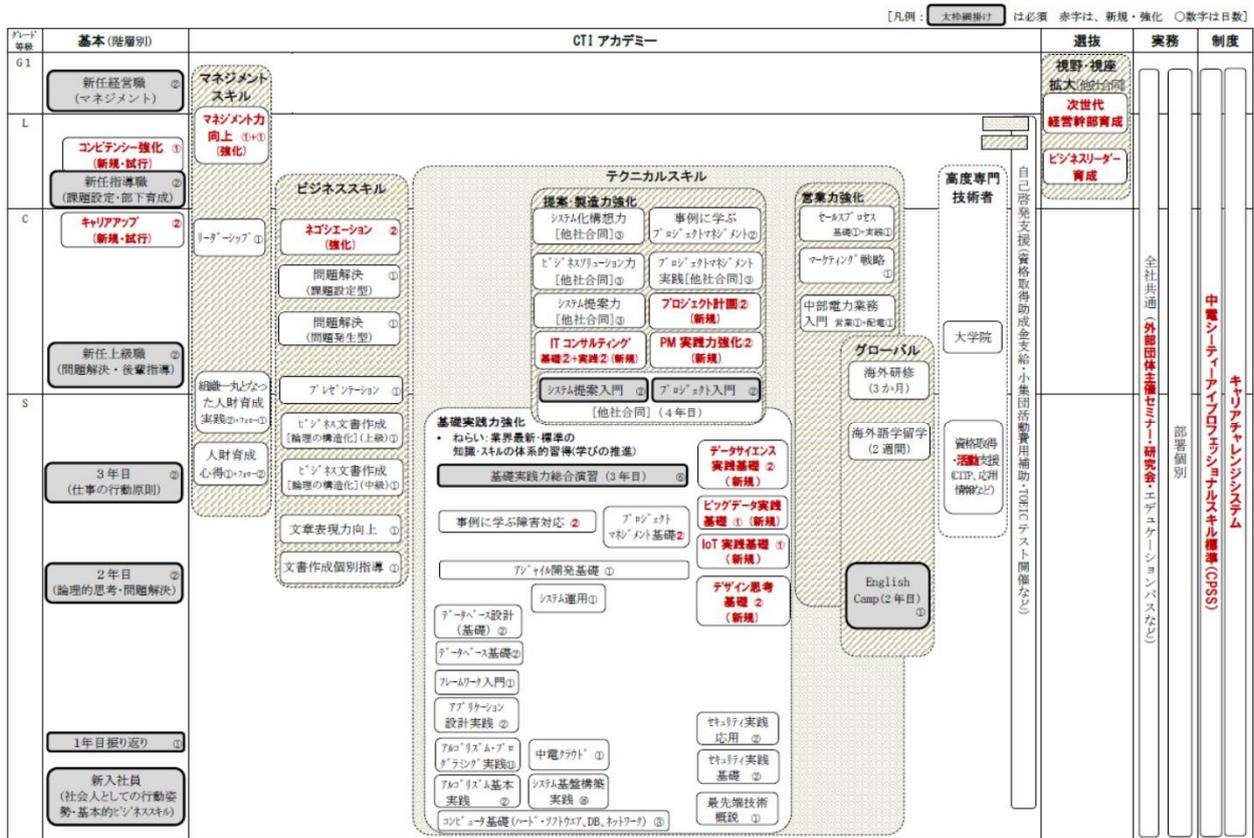
6. iCD取組みの効果

■効果項目:計画的な人財育成

CPSSを活用して、部下の現状技術レベルを診断。それを踏まえ、将来を見据えて補強すべき業務知識・スキルを把握し、本人とともに習得・向上方法を協議した上で技術者の計画的な育成ができた。

2019年度の人財育成計画では、高度で幅広い知識とコンサルティング力を持つ人財育成等の施策を追加した(下図参照)。今後もIT利用形態の変化に対応するなど、新たな領域の技術者を育成する。

【2019年度人財育成施策外観(案)】



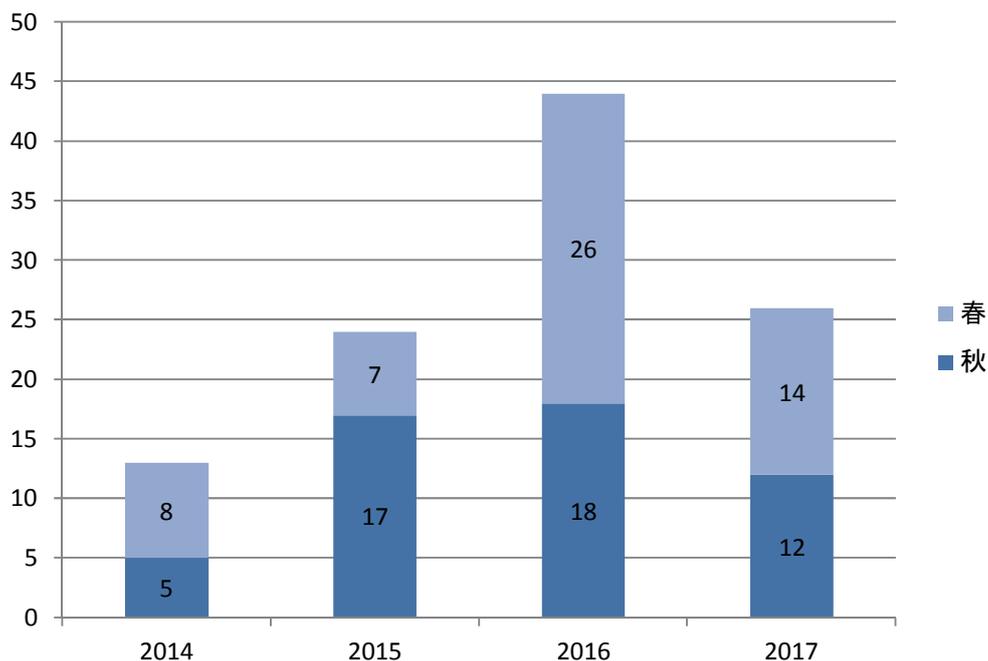
6. iCD取組みの効果

■効果項目: 自立的な成長

自身のキャリアやスキルを振り返り、今後の課題・目標を明らかにすることで、「自ら学び自ら行動する意欲」を高め、「知識・スキル」の向上を促進した。

CPSSの「アソシエイト」(CITP取得可能レベル)の承認要件として、必須知識・スキルの習得を客観的に担保するため「高度情報処理技術者資格」を2016年度から追加した。この取得を目標にチャレンジする社員が増加した(下図参照)。これをきっかけに、「学びの風土」醸成が期待できる。なお、学ぼうとする熱意ある社員に向けて、各種テーマの研修・勉強会や自己啓発支援策を充実させている。

【高度情報処理技術者合格者推移】



【CITP取得者推移】

